

# 夜間学校 ニュース

1988年 7月15日  
西成区萩之茶屋2-8-9  
旅路の里気付  
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人・中国人の  
指紋押なつ拒否断固支持！  
定住外国人に市民権を！

みんなで つくろう

みんなの 会館

毎週金曜日

夜七時より

市民館三階

釜ヶ崎夜間学校

三人よれば 何とかの 知恵

戻り梅雨の長雨  
しかし、あと一ヶ月で盆・夏祭り  
真夏のみの天気が続いて、梅雨明け宣言まであったのに、気圧配置は梅雨型に戻り、雨が降る日の続くこと。マア、少しは骨休めにいいかも知れないが、これでもまた暑くなった。体にもたえるかも知れない。  
ともあれ、今年ももう半分が終わり、あと一ヶ月もすれば盆になる。釜ヶ崎の夏祭りが近づいてくる。  
釜の仲間が、ソーマン仲の中から金を出し合い、参加することによって続けられている夏祭り、今年も、一回目の準備のための会合が開かれる。仲間の中にも、たとえ盆休みは短いものではあるとはいえ、それを×ドにガンバっているものが多いと思う。あと一ヶ月

大阪市政だより NO.470 昭和63年7月  
区版編集...557 大阪市西成区岸里1丁目5-18 西成区役所区民室 ☎659-1121

## 外国人登録法が 変わりました

外国人登録法が6月1日から変更されました。  
▷登録証明書がカード型に  
16歳以上の方の登録証明書は、カード型になりますので即日交付できなくなりました。お渡しできる日をお知らせしますので、その期間にお越しください。  
▷指紋の押なつは1回限りに  
指紋の押なつは、原則として1回となりますが、登録証明書には登録原票の指紋を転写することとされています。  
▷同じ写真が2枚必要  
申請の際には、縦4cm・横3cmの同じ写真が2枚必要です。  
▷氏名・生年月日・性別・国籍の変更・訂正にも写真2枚が必要  
氏名・生年月日・性別・国籍について変更や訂正があったとき、またはカード型の登録証明書の裏面記載欄に余白がなくなった場合は、登録証明書を作り替える必要がありますので引替交付の申請をしてください。  
詳しいことは、区役所までお問い合わせください。  
なお、大阪市では在日外国人の皆さんの人権を尊重し、負担軽減を図る立場から、引き続き指紋押なつ義務の廃止・登録証明書の常時携帯義務の廃止など法の抜本改正を国に要望していくとともに、登録証明書が即日交付できるよう強く働きかけています。  
〈区役所戸籍登録課〉



⇒これは、大阪市政だより、西成区版の頁から切り貼りしたものを、ワフで囲んだ。なお、以下に注目されたい。  
大阪市政、夜間学校ニュース題

字下の立場と同じものであることを示している。このような文面が出るのは、やはり、粘り強い闘争、多くの人々の支援があつてのこと、金を見返すべきである。

# 釜金の労働者は、どっちへ転つても

## 良い事はひとつも無い……

前回の七月八日、ようやく近畿地方も梅雨があけました。一方、その日の夕刊にはアメリカ南部のテキサス州のスーパーマーケットが豪雨のために倒壊したとのニュースが出ていました。日本では信じられないようなことですが、どうも鉄筋が十分使われていなかったようです。北海油田の大爆発・インドの鉄道事故と事故続き、さて釜金では？

前回の夜間学校では新聞にも報道された南津守の住民がおこしている、渥美興産による飯場建設に対する反対運動について種々話しあいましたが、ここでは前回に引き続き、読者からの投書を掲載します。テーマは病院に入院した人が何故病気が直らないうちに退院するのか、というものです。病気や入院は誰にとっても無関係ではありません。じっくり考えねばならない問題のひとつです。

机収

書目

医療保護法の入院で、  
何んで、半端で、退院するののか？

中〇省〇

せっかく、入院できたのに、何んで、半端で、退院するのであるのか。その主な原因を探ってみたいと思う。

ぎりぎりいっぱいまで、自分の体力の限界まで、病状に気がつかないで、おつとり刀で、センターの病院へ、かけこむのが普通である。休んでいけば、当然部屋代に追いまくられる。体調が悪化するにしたがって、仕事にも当然のことながら行けない。大半の労働者は、オケラの状態で入院するのである。

病院へ入院決定したはよいが、手荷物もなく、着たきりすずめ、金はオケラである。そこはよくしたもので、同じ部屋仲間同士、仕事の話や身の上話などで、交流ができ、少々の無理は聞いてくれる。

さて、問題は、部屋にあづけてある、手荷物の搬入やタバコ銭や日用品などに利用する金の借用問題である。ところが

病院側は、中々許可してくれないのが問題である。少なくとも、荷物の搬入やタバコ銭の借用する為の外出は、病院側の都合もあるが、十日以内にしてもらいたいものである。

次から次へと、診断・臨床的検査で釜ヶ崎の労働者は追いまくられる。こうした一面は製薬メーカーと一体となった病院側の商業イデオロギーでもたらされているのが実情である。また、ゴラク設備がない。たとえば簡単な単行本や碁将棋などである。

特に一番頭の痛いのは、病院が許可しているリーステレビが、電気代こみで八千円以上も取られることである。そのおまけに、売店の物品も市価格よりも、ラ一メンで十円、その他の品物で百円も高い。一事が万事、こんな具合である。医療保護での入院をしている労働者の手取りは、二万円である。これらの諸日用品で、ほとんど消えてしまうのが実情である。それも病院内で風呂でもあれば、話は別だが、風呂のない病院ではなおさらである。

市の行政当局は、営利中心主義の病院のやり方を放置しておいて、入院している労働者に、不当にも無駄使いするだの何のかのと言ってくるのである。

肥大化してくる中小企業つぶし、不当な大企業の合理化、さらに農村いじめなどの諸原因が、釜ヶ崎労働者や山谷労働者の慢性的な就労不安をよびおこしているのも見逃せない事実である。また政府の政策そのものも対米追従、対ソビエト戦略のなかに組み込まれた、増大する防衛費が何よりも立証している。これらの政府の政策が弱者切り捨て、行政にたてつくなどというような、無茶な市・府の行政がひどくなるばかりである。

さて、話は病院内に戻るが、入院して三週間ぐらいたると、薬の量が多くなってくる。それはどういふことかといえは検査、検査の結果が抗生物質などの薬づけである。それらの問題が、入院患者の副作用により、体の変調を呼びおこしていることも事実である。

こうした、営利主義の病院の内面を知ると患者はたいがいがいや気をおこし、退院する場合も多々ある。

一般的には、日用品代が、二万円ぐらいいではリーステレビやラ一メン代などにほとんど消えてしまうのが、実情である。一般的な表現をするならば、釜ヶ崎労働者は、どっちへ転がっても良い事はひとつもないといえよう。